

どこに暮らしても平等な機会を 佐伯 宗義

1894 (明治 27) 年 2 月 28 日—1981 (昭和 56) 年 8 月 4 日



富山地方鉄道を設立

立山黒部アルペンルートを完成

衆議院議員を 8 期務める

貧しい山村で生まれる

宗義は上新川郡立山村芦峯寺 (現立山町) で生まれました。父は山で鉱物を探す鉱山師でした。立山信仰の中心

地として開けた芦峯寺集落には当時、学校は小学校 1 校だけで、ほとんどの住民は山仕事でわずかな収入を得ているだけでした。宗義はそんな村の状況を変えたいと思っていました。

立山を貫通する大事業

宗義は 16 歳のときに父の事業を手伝うために上京。また、31 歳で福島県の鉄道会社の経営を立て直しました。

宗義は県内のどこに住んでも家から通勤できるようにするという構想をもっていました。県内のどこに住んでも、能力に応じた労働・文化・教育の機会が平等に与えられることを目指したのです。

これを実現するため、宗義は富山に戻り、1943 (昭和 18) 年に県内の鉄道、バス会社を統合して富山地方鉄道を設立。また、三方を山に囲まれた富山県が発展するには、立山を貫いて長野と北陸を結ぶ交通機関の整備を図ることが必要だと考え、1971 (昭和 46) 年、立山黒部アルペンルート*を完成させました。

宗義は衆議院議員に 8 回当選し、政治家としても活躍しました。

夢や志をかなえたポイント

- 自分の町を住みやすくする
- 広い視野で世の中の仕組みを考える
- 困難なことにも挑戦する



立山トンネルの貫通を喜ぶ人々たち。室堂から大観峰を結ぶこのトンネルは、トロリーバスで通ることができます。(立山黒部貫光提供)

*立山黒部アルペンルート [たてやまくるべあるぺんーと]

標高 3000m 級の峰々が連なる北アルプスを貫く観光ルート。完成まで約 20 年間かかりました。